

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102948
法人名	医療法人 椿クリニック
事業所名	グループホーム つばきの里
所在地	愛媛県松山市古川北1丁目25番24号
自己評価作成日	平成21年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療と介護の連携を蜜にし、入居者の身体状況を細かく観察を行い、元気で安心した生活が送れるよう配慮しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人の運営するホームであるため医療と介護の連携が図られ、医療・介護面で高いレベルの教育を受けた職員が常に利用者の状態把握に努めており、本人及び家族にとって安心できる体制がある。民生委員等の協力を得て地域の行事に参加しており、地域との交流や連携が図られるよう配慮している。また、災害対策においても地域の協力を得られるようお願いするとともに、避難場所としてホームを提供することを表明するなど、地域密着型サービスの意義を理解したうえでホームの役割を果たそうと努めている。重度化や終末期に向けて代表者と職員が方針を共有して取り組み、詳細な看取り指針を作成し、本人及び家族、関係者等と方針を共有した支援に取り組んでいる。前回の外部評価結果を活かして、さらにサービスの向上を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム つばきの里

(ユニット名) つばきの里 1F

記入者(管理者)

氏 名 泉本 厚子

評価完了日 平成 21 年 9 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着サービスについて事業所全体で話し合い、それに基づいた理念を掲げている。また、毎朝の申し送り時に確認している。	
			(外部評価) 医療と介護の連携を運営方針の基本として、地域密着型サービスの役割を盛り込んだ理念を作成している。管理者と職員は、ミーティング等で日々のケアの振り返りを行い、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ホームの行事の際にチラシを配布し地域住民の方に参加を促している。また、地域行事にも積極的に参加している。	
			(外部評価) 自治会に加入しており、回覧板等で地域の情報を得て盆踊りに参加したり、祭りの御輿や獅子舞の立ち寄りを受け入れるなどしている。運動会の見学や職場体験の受け入れ等を通じて小・中学校とも交流している。また、法人全体で認知症の勉強会を開催しており、民生委員の協力を得て地域住民にも呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症についての地域研修会を開催し、地域の方に認知症への理解を促している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヵ月ごとに運営推進会議を開催しており、ボラン ティア団体や民生委員の方との意見交換を行って いる。	
			(外部評価) 市担当者、地域代表者や家族等の参加を得て2ヵ月毎 に開催している。会議を通して民生委員の協力も得ら れるようになり、地域との交流や連携が深まってい る。また、開催時間を工夫して運営推進会議と家族会 との合同会議を計画するなど、会議の活性化を目指し ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営、サービス提供についてアドバイスをいただい ている。また運営推進会議にも参加していただき意見交 換を行っている。	
			(外部評価) 研修会や運営推進会議を通じて相互交流が図られてお り、相談しやすい関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会にて、身体拘束について学び、正しく理解し、 取り組んでいる。ベット柵については、ベットからの 転落、立ち上がり時の転倒予防のため、家族の同意の もと、夜間のみ使用させてもらっているが、常に使用 しなくて済む方法を探っている。	
			(外部評価) 職員は、内部勉強会で身体拘束の弊害や具体的な行為 等について学んでいる。代表者は、日々のケアの中で 機会を捉えて職員に説明し、確認し合っている。玄関 の施錠を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 院内、院外勉強会にて学んでいる。職員全員がチェックしあうことで身体的・精神的・社会的虐待を防止している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会都等に参加し、理解を深めている。また、利用者への必要性についても話し合いを設け検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) サービスの開始・変更・停止等を行う際にはしっかりと説明を行い納得していただいている。また、家族の方々が意見・苦情を訴えやすい環境づくり（連絡ノートの設置等）に気を配っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 口頭でのコミュニケーションだけでなく、連絡ノートにて意見・苦情を聞きだすことに努めている。また、運営推進会議にて意見交換を行っている。 (外部評価) 家族の訪問時には声をかけ、出された意見や要望をミーティングで話し合ったり、利用者個別の連絡ノートを備えて家族と職員の情報交換を行い、それらを運営に反映させている。	連絡ノートは玄関に置かれているが、プライバシー保護の観点から設置場所について職員間で今一度検討することを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 勉強会・ミーティングの際に意見交換を行っている。また、適宜スタッフ会議を行い、意見を出してもらって改善に努めている。 (外部評価) ミーティング等で出された職員の意見や提案については管理者・責任者会議を通して法人全体のミーティングで協議し、代表者は運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の努力、勤務状況を把握し、即対応している。また、資格取得への支援も行いスキルアップできるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会への参加を促したり、法人内での勉強会・ミーティングにて知識、技術を身につけることで質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき意見交換を行っている。また、他ホームの運営推進会議にも積極的に参加し、情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 必ず事前訪問を行い、本人の訴えを確認している。また、随時ホームへの見学も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談にはケアマネージャーにも同席していただき、 ニーズや不安などを確認している。また、事業所と家 族の協力体制についても説明を行い理解してもらっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 面談にはケアマネージャーにも同席していただき、暫 定ではあるがケアプランを作成。サービスの利用時 には、安心して利用していただけるように配慮してい る。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 日常生活を共にしお互いを共感できるよう取り組ん でいる。また、何気ない会話も大切にして信頼関係を 築けるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事への参加や家族会等で親睦を深めている。また、 利用者の状況をこまめに相談しあい共に支えていく関 係を築けるよう努めている。遠方の家族には電話やF AXにて状況報告を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 面会に来やすい、居心地の良い空間・雰囲気作りに努 めている。また、電話をかけたたり手紙を書くなどの支 援を行っている。 (外部評価) 職員は、利用者が電話をかけたたり年賀状を出す手伝い をして、馴染みの人との関係が途切れないよう支援し ている。また、地元出身の利用者でない場合も、近隣 のコンビニエンスストアや美容院などに出かけ、新た な馴染みの場所ができるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が共に過ごせる環境づくりを行っており、しょくいんが間に入ることでトラブルの回避にも努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても家族、本人が安心して、過ごせるよう他サービスの紹介など、相談に応じ支援している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来る限り個々の意向に沿った対応に努めている。また、自己決定を尊重し対応している。	
			(外部評価) 職員は、日々のケアや一緒に散歩に出かけた時などの会話から思いや意向を把握することに努めている、また、会話での把握が難しい利用者には、表情や行動に注目したり、筆談等も活用している。把握した情報は申し送りノートに記録して職員間で共有し、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前、入所初期に本人・家族にアセスメントを行い記録に残し、全職員が把握している。また、生活の中で気付いたことにも注目しケアに活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々の残存機能や身体状況を見極め、生活歴に基づいた、その人らしい生活が出来るよう支援している。また、日々の状態は申し送りにて共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の心身状況、家族のニーズ・違憲を把握し、その人らしい生活がおくれるようケアプランを作成、実施している。また、定期的なモニタリングに加え、随時スタッフ会議を行い現状の把握に努めている。 (外部評価) アセスメントを基に、担当者が中心となって基本計画を立て、本人及び家族、主治医、職員等で話し合い、それらを反映した介護計画を作成している。3か月毎または変化に応じてその都度見直しを行い、本人及び家族に説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子はもちろん、生活の中での気づきも記録に残しスタッフ会議にて話し合い、ケアに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人内にデイケア、小規模多機能施設を併設しているため、本人の状況、ニーズに応じて様々なサービスの提供が行えている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 様々なボランティアの取り入れや、防災訓練等には民生委員の方々にも参加していただき協力体制を築けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族の意向を尊重し受診できるよう支援している。 (外部評価) 本人及び家族の希望を大切にしたかかりつけ医の受診を支援しており、家族が対応できない場合は職員が受診に同行している。ホームでの状況や受診内容等はかかりつけ医や家族に報告し、適切な医療を受けられるよう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 椿クリニックの看護師と24時間の協力体制が取れている。また、ベテル病院の訪問看護師による定期訪問看護を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関との連絡を密にし安心して過ごせるよう配慮している。また、入院時には随時面会に行き、本人の現状を確認すると共に病院関係者と情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に看取りの指針・マニュアルを説明し、家族の方の意向を確認している。また、見取りを行った経験をもとに新しい職員の教育も行っている。 (外部評価) 代表者は、職員の意志を確認した上で詳細な看取り指針を作成し、職員に対する研修を行っている。入居時の早い段階で家族等に看取りのあり方とホームでできることを説明して同意を得、方針を共有しており、看取りも経験している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会・ミーティングにて知識、技術を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災マニュアルを作成しており、災害時にはマニュアルに沿った避難、対応が出来る体制が整っている。また、民生委員の方や地域との協力体制も築けている。 (外部評価) 消防署の指導のもとで避難及び防火訓練を行い、また昼夜を想定しての自主訓練を定期的実施しており、防災マニュアル、緊急連絡網、避難経路図等も整備している。民生委員の連絡網を提供してもらって災害時の協力を得られるようにするとともに、地域の避難場所としてホームを提供することも表明しており、地域との相互協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけないよう配慮しケアや言葉がけを行っている。個人情報においてもプライバシーの保護に努めている。 (外部評価) 日々のケアの中での声かけや誘導等の際にも誇りやプライバシーを損ねないよう、職員は相互に注意し合いながら適切に対応できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個々の状態、その場の状況に合わせた言葉がけや対応を行い、自己決定・本人の意向が尊重できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活のペース・個性を尊重し、体調や状況に応じて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に、美容室に外出している。また、毎日の身だしなみも出来る限り本人の意向を尊重している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その人の能力に応じて、下ごしらえや盛り付け、洗いあなど協力してもらっている。また、季節に応じたメニューを取り入れたり、食事中に音楽をかけるなど食事を楽しめる工夫を行っている。	
			(外部評価) 利用者それぞれにできることをしてもらっており、職員と一緒に準備や後片付けをしている。職員が立てる献立を栄養士にチェックしてもらい、カロリー制限のある利用者にはおやつで調整したり、介護度の高い利用者には刻み食等に対応するなど、適切な支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 作成したメニューは栄養士のチェックを受けている。水分量・水分摂取の方法に注意し、個々の好みも取り入れ支援できている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを元に声かけ・誘導を行いトイレでの排泄を促している。また、夜間においてもポータブルトイレを使用するなどしてパットの使用を減らしている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握したうえで、声かけやトイレへの誘導等をしている。ポータブルトイレの利用により夜間でもパットの使用を減らすよう努めるなど、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の水分摂取量や日々の運動量を把握し、予防に努めている。また、状況に応じて乳製品やセンナ茶を使用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 2日おきの入浴を基本とし、状況に応じて本人の意向を尊重している。	
			(外部評価) 2日毎の入浴を基本にしており、入浴時間も自由に設定しているが、午後の時間帯に入る利用者がほとんどである。入浴の苦手な利用者には、声をかける職員を変えてみたり、声かけの方法を工夫するなどしながら、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状態に応じて、安息・安眠できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指導により薬の作用や副作用、用法など理解できている。また、日々様子観察を行い報告・相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の能力に合わせて役割分担を行うことで自身が社会の一員である事を認識できるよう支援している。また、季節に応じた行事を提供したり、日々の余暇時間の充実を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の状態・様子・気候に応じて散歩やドライブ・買い物など、外出する機会を設けている。また、外出時には地域と方とのコミュニケーションを大切にしている。	
			(外部評価) 利用者は日常的に近所のパン屋、スーパー、公園等に出かけたり、職員と一緒にゴミ出しに行った際に住民と挨拶を交わしている。介護度の高い利用者も一緒に戸外に出かけられるよう、季節ごとの花見や公園等へのドライブも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 紛失したりトラブルがあることを家族、本人に説明し、同意を得てお小遣いとして預かっている。買い物にでかけた際には、自分で支払うなどの支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙のやり取りは自由に行えるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に応じた壁絵を張ったり、飾り付けを行っている。また、風鈴やすだれなど季節感のあるものも使用している。	
			(外部評価) 共用空間は自然光や風を取り入れて明るく、気になる匂いもなく清潔である。手作りの作品や利用者の生活の様子がわかる写真を飾り、季節感や温かさが感じられ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングではそれぞれ定位置があるが、状況に応じて対応している。また、利用者同士が馴染みの関係になれるよう支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで自分で使っていた馴染みの家具等をそのまま持ち込んで使用することで、これまでの生活が継続できるよう支援している。	
			(外部評価) 家族の協力を得ながらテレビ、整理たんす、本人や家族の写真、鉢植えの花や観葉植物など、本人の好みや使い慣れた物を活かして居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 文字を大きく表示したり、わかりやすく配置するなど工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102948
法人名	医療法人 椿クリニック
事業所名	グループホーム つばきの里
所在地	愛媛県松山市古川北1丁目25番24号
自己評価作成日	平成21年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療と介護の連携を蜜にし、入居者の日々の身体状況を細かく観察、把握し、元気で安心して毎日を過ごしていただくよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人の運営するホームであるため医療と介護の連携が図られ、医療・介護面で高いレベルの教育を受けた職員が常に利用者の状態把握に努めており、本人及び家族にとって安心できる体制がある。民生委員等の協力を得て地域の行事に参加しており、地域との交流や連携が図られるよう配慮している。また、災害対策においても地域の協力を得られるようお願いするとともに、避難場所としてホームを提供することを表明するなど、地域密着型サービスの意義を理解したうえでホームの役割を果たそうと努めている。重度化や終末期に向けて代表者と職員が方針を共有して取り組み、詳細な看取り指針を作成し、本人及び家族、関係者等と方針を共有した支援に取り組んでいる。前回の外部評価結果を活かして、さらにサービスの向上を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム つばきの里

(ユニット名) つばきの里 2F

記入者(管理者)

氏 名 泉本 厚子

評価完了日 平成 21 年 9 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念について、ミーティングで話し合ったり、また、毎朝の申し送り時に理念を確認、実践につなげていくよう努めている。	
			(外部評価) 医療と介護の連携を運営方針の基本として、地域密着型サービスの役割を盛り込んだ理念を作成している。管理者と職員は、ミーティング等で日々のケアの振り返りを行い、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 恒例行事は、毎年案内状を作成、ご近所の方、民生員さんに参加を呼び掛けている。また、認知症への理解を深め、支援が得られるように、地域や家族に対して定期的な勉強会を開催している。	
			(外部評価) 自治会に加入しており、回覧板等で地域の情報を得て盆踊りに参加したり、祭りの御輿や獅子舞の立ち寄りを受け入れるなどしている。運動会の見学や職場体験の受け入れ等を通じて小・中学校とも交流している。また、法人全体で認知症の勉強会を開催しており、民生委員の協力を得て地域住民にも呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 職員が講師となり、認知症の勉強会を開催し、認知症の支援方法を学んでいただいたり、認知症の理解を促している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的な運営推進会議の開催ができており、近所の方、自治会長、民生員さんの意見を聞くことができ、役立てている。	
			(外部評価) 市担当者、地域代表者や家族等の参加を得て2か月毎に開催している。会議を通して民生委員の協力も得られるようになり、地域との交流や連携が深まっている。また、開催時間を工夫して運営推進会議と家族会との合同会議を計画するなど、会議の活性化を目指している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、その都度、取り組んでいる。	
			(外部評価) 研修会や運営推進会議を通じて相互交流が図られており、相談しやすい関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会にて、身体拘束について学び、正しく理解し、取り組んでいる。ベット柵については、ベットからの転落、立ち上がり時の転倒予防のため、家族の同意のもと、夜間のみ使用させてもらっているが、常に使用しなくて済む方法を探っている。	
			(外部評価) 職員は、内部勉強会で身体拘束の弊害や具体的な行為等について学んでいる。代表者は、日々のケアの中で機会を捉えて職員に説明し、確認し合っている。玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会にて、学ぶ機会が持てている。身体への虐待はもちろん、言葉での虐待についても、職員間で、はっきりお互いに注意し、防止に努める事ができている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) グループホーム連絡協議会主催の研修会に参加し、学ぶ機会をもっている。また、必要と思われる家族には、制度を説明し、活用できるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) その都度、十分に説明、理解、納得を得た上でサインをいただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族との連絡ノートを作り、つばきの里からは、日々の細かな様子を書き込んで、お知らせしている。また、家族からは、要望、苦情など書き込みやすいように工夫し早期改善に努めている。	
			(外部評価) 家族の訪問時には声をかけ、出された意見や要望をミーティングで話し合ったり、利用者個別の連絡ノートを備えて家族と職員の情報交換を行い、それらを運営に反映させている。	連絡ノートは玄関に置かれているが、プライバシー保護の観点から設置場所について職員間で今一度検討することを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) その都度、その時に合わせて、スタッフ会議をし、意見を出してもらって改善に努めている。 (外部評価) ミーティング等で出された職員の意見や提案については管理者・責任者会議を通して法人全体のミーティングで協議し、代表者は運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者、ユニット長からの報告を元に実情を確認、即対応している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各職員に合った内容の研修会に参加できるように配慮している。また、法人内でも、毎月勉強会を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホームの連絡協議会に加入、研修会に参加すると共に恒例行事の紹介や意見交換できる場を持ち、質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に見学していただき、本人と話ができる機会を設けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に見学していただき、意見、要望を聞き、暫定ではあるがケアプランを作成。サービスの利用時には、安心して利用していただけるように配慮している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前にもらった情報を元にスタッフ会議し、作成したケアプランを説明、本人、家族にサービス内容を確認していただけるような対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 普段の生活の中で、できる事は自分でしていただき、職員に依存してしまわず、今を共に生きていくという信頼関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人、家族の思いを理解する。ほとんど面会に来られない家族には、FAXや電話でその都度報告。疎遠にならないよう配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 電話をかける、手紙を書くなど支援している。贈り物が届いた際には、必ず職員が連絡し、届いた事をお知らせすると同時に、いつでも気軽に立ち寄っていただけるよう声掛けしている。 (外部評価) 職員は、利用者が電話をかけたり年賀状を出す手伝いをして、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。また、地元出身の利用者でない場合も、近隣のコンビニエンスストアや美容院などに出かけ、新たな馴染みの場所ができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の個性を理解、把握し、職員が間に入る事でコミュニケーションの円滑に努めている。また、個々の能力に合わせてお手伝いを声掛けすることで、本人の意欲向上につなげている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用期間内にしっかりと信頼関係を築いておくことで、終了後も良好な関係を維持できるように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 新しい職員については、必ずフォローすることで入居者が戸惑うことのないようにしている。長年生活されている方の中には、自分優先な主張や職員への強い依存がみられるため、その時その時での柔軟な対応ができるように努めている。 (外部評価) 職員は、日々のケアや一緒に散歩に出かけた時などの会話から思いや意向を把握することに努めている、また、会話での把握が難しい利用者には、表情や行動に注目したり、筆談等も活用している。把握した情報は申し送りノートに記録して職員間で共有し、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートなどを参考にし、更に細かな所まで引き出せるよう本人との会話にも工夫し把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 交代勤務のため、記録、申し送りを確実にし、情報を共有。ケアを一定化させることで不穏状態の改善などに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 問題点、健康状態の変化など、必ずスタッフ会議を行い、必要に応じては医師、看護師に相談、ケアに役立てている。また、家族には、常に詳細を報告し、意向や意見を取り入れている。 (外部評価) アセスメントを基に、担当者が中心となって基本計画を立て、本人及び家族、主治医、職員等で話し合い、それらを反映した介護計画を作成している。3か月毎または変化に応じてその都度見直しを行い、本人及び家族に説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録も仕事の一つとし、確実な記載に努めている。記録を見ることで、更に細かな情報の共有ができて、申し送り時に、ケアの確認、サービスの徹底に生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) グループホームだけでなく、デイケア、小規模多機能を併設しているため、スタッフ間で話し合いよりよいサービスの提供ができています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近所のお店や公園を利用する事で、顔なじみとなり、コミュニケーションがとれるように、また、地域の祭り際には、お神輿や獅子舞に入ってもらい、楽しみとなるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) (外部評価) 本人及び家族の希望を大切にしたかかりつけ医の受診 を支援しており、家族が対応できない場合は職員が受 診に同行している。ホームでの状況や受診内容等はか かりつけ医や家族に報告し、適切な医療を受けられる よう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日定時連絡、報告し、即対応してもらえるよう24時 間体制での支援あり。また、週1回の訪問看護支援も あり、入居者、家族に安心していただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院された場合には、再々訪ねては、情報を得ての支 援ができています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアについて経験あり。最近では入所時に 家族の意向を確認、交わす書類をもとに意思疎通を図 り、職員だけでなく、家族とともにチームケアにて取 り組む体制が整っている。また、対応する職員への教 育にも取り組んでいる。	
			(外部評価) 代表者は、職員の意志を確認した上で詳細な看取り指 針を作成し、職員に対する研修を行っている。入居時 の早い段階で家族等に看取りのあり方とホームででき ることを説明して同意を得、方針を共有しており、看 取りも経験している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 月1回の全体ミーティング時に、医師、看護師に直接指導を受けている。またいつでも、即指導を受けられる体制にある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 事故、災害、応急時の対応マニュアルがあり、慌てず常に対応できるように電話連絡方法を大きく表示、避難訓練も地域の方に呼びかけ参加協力の上、定期的に行っている。 (外部評価) 消防署の指導のもとで避難及び防火訓練を行い、また昼夜を想定しての自主訓練を定期的実施しており、防災マニュアル、緊急連絡網、避難経路図等も整備している。民生委員の連絡網を提供してもらって災害時の協力を得られるようにするとともに、地域の避難場所としてホームを提供することも表明しており、地域との相互協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 掃除、片付け時など、各居室に出入りする場合には、声掛けだけでなく、なるべく一緒に行うようにしている。また、視線を合わせての声掛け、言葉遣いに十分配慮し、接するように心かけている。 (外部評価) 日々のケアの中での声かけや誘導等の際にも誇りやプライバシーを損ねないよう、職員は相互に注意し合いながら適切に対応できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 常にオープンセッションの形で声掛けを心がけている。入居者の返事を待てる余裕を持てるよう職員の指導に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 常に注意しているが、優先しがちであるため、ケアプラン見直し時などに再確認、職員同士が声掛けあい、支援していけるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に、美容室に外出している。毎日の洋服の組み合わせも配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その人の能力にあわせた、お手伝いをして頂いている。また、個々の食事形態にあわせ、お粥・刻み食を提供している。季節に応じたメニューを取り入れ、食欲をそそるような、彩り・盛り付け等に工夫できている。 (外部評価) 利用者それぞれにできることをしてもらっており、職員と一緒に準備や後片付けをしている。職員が立てる献立を栄養士にチェックしてもらい、カロリー制限のある利用者にはおやつで調整したり、介護度の高い利用者には刻み食等に対応するなど、適切な支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 作成したメニューは栄養士のチェックをうけている。水分量・水分摂取の方法に注意し、個々の好みも取り入れ支援できている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、必ず口腔ケアを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々に合わせ、トイレ誘導を行っている。また、ポータブルトイレを使用することで、パッドなどの使用を減らし、清潔の維持に努めている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握したうえで、声かけやトイレへの誘導等を行っている。ポータブルトイレの利用により夜間でもパットの使用を減らすよう努めるなど、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々に合わせて、飲食物（乳製品・センナ茶・バナナ等）にて調整、日中の活動量にも注意している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた支援ができている。	
			(外部評価) 2日毎の入浴を基本にしており、入浴時間も自由に設定しているが、午後の時間帯に入る利用者がほとんどである。入浴の苦手な利用者には、声をかける職員を変えてみたり、声かけの方法を工夫するなどしながら、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々に合わせた日中の休憩、就寝時間に配慮できている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎日入居者の体調について医師に報告し、細かな指示の元、様子観察をし服薬支援ができています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の能力に合わせて役割分担ができています。誕生会などの行事やおやつも手作りするなど楽しみとなる機会を作っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近くのお店を利用したり、公園に散歩に出かけることで、地域の方や子供達と会話を楽しんでいる。	
			(外部評価) 利用者は日常的に近所のパン屋、スーパー、公園等に出かけたり、職員と一緒にゴミ出しに行った際に住民と挨拶を交わしている。介護度の高い利用者も一緒に戸外に出かけられるよう、季節ごとの花見や公園等へのドライブも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 紛失したりトラブルがあることを家族、本人に説明、了解を得た上で預かることとしているが、買い物にでかけた際には、自分で支払うなどの支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 支援できている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには、季節に合わせた壁画を、廊下には外出した際の写真を展示している。すだれや風鈴、生花を飾るなどでも季節感を取り入れている。 (外部評価) 共用空間は自然光や風を取り入れて明るく、気になる匂いもなく清潔である。手作りの作品や利用者の生活の様子がわかる写真を飾り、季節感や温かさが感じられ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) お互いに自分の定位置があるが、職員が関わることで工夫できている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで自分で使っていた馴染みの物をそのまま持ち込んでいただいている。また、定期的な寝具の洗濯、布団干しをすることで気持ちよく過ごせる工夫をしている。 (外部評価) 家族の協力を得ながらテレビ、整理たんす、本人や家族の写真、鉢植えの花や観葉植物など、本人の好みや使い慣れた物を活かして居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者が理解できるように、大きく表示したり、配置することで工夫できている。	